館報 中川

第325号
2026年（令和８年）
11月15日
中川村公民館



秋の七草

秋の七草のひとつに藤袴（ふじばかま）がある。そして藤袴といえば、「旅する蝶」といわれるアサギマダラが集まる花として知られている。特にオスは花に含まれる成分を摂取し、メスを引き寄せるフェロモンを作るとされる。

近年、人気アニメの「鬼滅の刃（きめつのやいば）」に登場する「胡蝶しのぶ（こちょう）」のモデルの蝶としても知られており、隊服や髪飾りはアサギマダラをモチーフにしている。アサギマダラの写真を見て「鬼滅の刃のちょうちょだ！」という子どももいて、以前よりも身近な蝶になってきた。

無病息災を願っておかゆとして食べる春の七草に比べ、観賞して楽しむ秋の七草はあまり馴染みがない。山上憶良（やまのうえのおくら）が万葉集で読んだ「萩の花（はぎのはな）　尾花（おばな）　葛花（くずばな）　撫子の花（なでしこのはな）　女郎花（おみなえし）　また藤袴（ふじばかま）　朝貌の花（あさがおのはな）」の和歌が秋の七草の由来となっている。尾花はすすき、朝貌は一般にキキョウを指すという。

第51回 中川村文化祭

（文化団体連絡協議会・公民館共催）

第51回中川村文化祭が、まなびの里「牧ヶ原文化公園」を会場に盛大に開催されました。展示の部を社会体育館で11月6日（金）～8日（日）、ステージの部は文化センター大ホールで8日（日）午後に行われ、多くの人が会場を訪れました。

共同開催「なかがわ商工祭」

文化祭に合わせて、8日（日）に「なかがわ商工祭」が共同開催されました。商工祭の目玉企画「アルクマ熱気球」は、当日の天候条件により飛びませんでしたが、会場には開始時間から大勢の皆さんが来場しました。子どもたちに大人気の「はたらくくるま展示」をはじめ、「電動モビリティ乗車体験会」「ロボット体験」「モルック体験」といった体験ブース、多様なメニューの並ぶフードコートでの食事など、見どころが満載。来場した皆さんは家族や友人とともにそれぞれのペースで会場を巡りながら、「文化の秋」、「体験の秋」、「食欲の秋」が凝縮された祭典「商工祭&文化祭」を存分に堪能されていました。

技の祭典「展示の部」

展示の部は村民の皆さんが生涯学習の成果を発表する場で、村内の文化グループ・クラブ等、幅広い年齢層の40団体、14名の個人出展のみなさんから、約1000点の多岐にわたるジャンルの作品が展示され、保育園児からご高齢の方まで、心のこもった力作の数々が会場に並びました。展示スペースでは、東小学校5年生の「ゼロカーボンに関するクイズ」「地産地消おやつ販売」や、新たな学校づくりプロジェクトの「タイルづくり体験」、たくさんの絵本が並んだムーミンの会の「すみっこライブラリー」、カネコーヒーの「自家焙煎コーヒーの販売」、なかがわ猫係のワークショップ、野外保育もりっこの「お菓子販売・竹鉄砲射的」、中川村子どもの権利村民懇談会の「なんでやねんすごろく」、透かし折り紙クラブの「透かし折り紙体験」などの多彩な体験ブースが並びました。さらに、同時開催イベントとして、恒例の「茶道体験」、中川ピックルBCによる「ストリートピックル（ピックルボール体験）」、中川卓球クラブの「卓球体験会」、地域政策課DX推進係による「スマホ詐欺からの守り方」が開催され、世代を問わず多くの来場者がさまざまなジャンルの体験を楽しみました。

展示会場には、3日間でのべ1146名が来場し、会場のあちこちで作品に見入ったり、出展者と会話を交わしたりする姿が見られました。一つひとつの展示内容の充実ぶり、世代を超えた取り組みの数々に、中川村の文化・芸術の奥深さ、素晴らしさを改めて実感する3日間となりました。









百花繚乱 展示の部







文化の華「ステージの部」

今回のステージの部は、25団体・個人、約２８０名もの大勢の方々がステージに立ち、日頃の練習の成果を披露しました。

出演された方々は、年齢や性別はもちろんのこと、披露された演目のジャンルもさまざまで、どのステージも見応えがありました。会場には立ち見が出るほど大勢の観客が詰めかけ、大きな盛り上がりを見せました。

演目は、楽器演奏や踊りの他、落語、歌唱、フラダンス、太極拳、空手、和太鼓、人形浄瑠璃、ヨーヨーパフォーマンスなどジャンルは様々で、観る人を飽きさせないあっという間の4時間でした。

幕間（まくあい）の舞台転換では舞台裏方のスタッフを担当した各分館社会文教部のみなさんが大活躍。出演者・観客・スタッフが一丸となったステージ発表となりました。多くのご来場をいただき、ありがとうございました。

ステージの部のラストには、福万来（餅投げ）が行われ、来場者は楽しく縁起物を持ち帰りました。各団体では、既に来年の文化祭に向けた準備が進められています。来年も多くの皆さんの来場をお待ちしています。


中川人形保存会


中川中学校吹奏楽部


陣馬太鼓子ども連


中川キッズダンス

ステージの部
静・動、和・洋、今・昔　競演

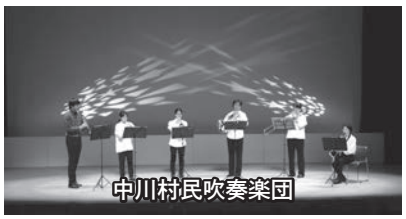

忠孫亭信修『落語』


伊那谷フラファミリー


ヨーヨーパフォーマンス


太極拳カトレア会


アフリカンドラム＆ダンス「サブニュマ」


中川村民吹奏楽団


沖町軽音サークル


歌謡体操ボランティアの会

第51回 中川村文化祭 ステージの部 プログラム

1. 吹奏楽「アンパンマンのマーチ」「アイデア」中川中学校吹奏楽部

【開会式】

2. 吹奏楽「人生のメリーゴーランド」「銀河鉄道９９９」中川村民吹奏楽団
3. 歌「どじょっこふなっこ」「夕焼け小焼け」「遥かな友に」歌い人なかがＷａ！！
4. ピアノ演奏「ハンガリー狂詩曲第2番より」音研
5. 踊「まとい」「みだれ咲き」池上社中
6. 踊「花笠音頭」もみじ会
7. フラダンス「ヘ・アロハ・ノ・ナ・プア」「カピリナ」「カワイオカレナ」伊那谷フラファミリー
8. フルートアンサンブル「千と千尋の神隠しメドレー」「いのちの歌」オオルリ中川
9. 太極拳表演「二十四式太極拳」「太極功夫扇」太極拳カトレア会
10. 日本舞踊「男の舞扇」「鯱」日本舞踊上伸流
11. バンド演奏「さくら」「人生の扉」沖町軽音サークル
12. 歌謡体操「北国の春」歌謡体操（ボランティアの会）
13. アフリカンドラム＆ダンス「クク」サブニュマ
14. 空手演武「基本稽古」「試し割り」武道空手中川少年クラブ
15. 伝統芸能人形浄瑠璃「中川えびす舞」中川人形保存会
16. 落語「こうもり」忠孫亭信修
17. エアロビクス「負けないで」「あいうえおんがく」健康体操クラブ
18. パフォーマンス「ヨーヨーパフォーマンス」島崎夏樹
19. おどり「夫婦坂」ちどり会
20. ハーモニカ演奏「シューベルトの子守唄」「いつでも夢を」「信濃の国（短縮版）」青空
21. ダンス発表「ＨＩＰＨＯＰダンス」中川キッズダンス
22. 消防団ラッパ吹奏「消防団ラッパ吹奏」中川村消防団喇叭隊
23. ＹＯＳＡＫＯーソーラン踊り「パワー」「ねぶたＹＯＳＡＫＯー大乱舞」中川天龍振興会
24. 和太鼓演奏「夏祭り」中川西小学校４学年
25. 和太鼓演奏組太鼓「巴打ち」陣馬太鼓子供連

【福万来】

話題あれこれ

I VOTED『投票行きました！』

「投票済証」、ご存じですか？

選挙の時に、投票所でもらえる「投票済証明書」。これまでは、白い紙に「投票済」と書かれただけのものが一般的でした。ところが近年、全国の自治体で工夫を凝らしたデザインの投票済カードやシール、ポストカードなどを作る動きが広がっています。

その理由は「投票した記念になる」「若い世代が選挙に親しみやすくなる」「地域の魅力を発信できる」「主権者意識を高める」などさまざまです。

全国のおもしろ投票済証

デザインには、例えば自治体のご当地キャラや、「明るい選挙啓発ポスターコンクール」の入賞作品、風景写真やイラストなどを使ったもの等があります。

静岡県沼津市では２０２５年７月の参院選で、当市を舞台としたアニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」デザインの投票証明書を配布したところ、投票者の１／４にあたる２万６６０人が配布を希望。〝これまで選挙に関心がなかった層が投票に来るきっかけになる〟と期待され、今年２月の衆院選では３万枚を用意したそうです。

愛知県豊川市では、スマートフォンのカバーに気に入ったステッカーを入れる若者文化に着目し、ステッカーの投票済証を作成。ＳＮＳへの投稿や身近な人との会話の中で、「選挙」や「投票」を話題にするきっかけづくりをコンセプトにしています。

他にも、今年10月に行われた横浜市長選では、カルタ風の投票証明書が登場。「す：すきですよこはま　いきます　とうひょう」「み：みんしゅしゅぎ　してるかい」など、４種類のカードが配布されました。

また、長野県須坂市では須坂市動物園の人気投票で上位になった動物の写真をデザイン。裏面には「選挙クイズ」もあって、投票に同伴した子どもにもプレゼントしています。

岐阜県瑞穂市では、市のキャラクターと写真に加え、ＱＲコードで過去の投票率のデータを読み込めるようにするなど、各地で主権者意識を高めるための取組みも行われています。



豊川市・ステッカー版の投票済証「ぽーとすみっす」

選挙割と組み合わせて、地域経済の活性化にも！

さらに最近では、投票済カードを提示すると、地元のお店で特典が受けられる「選挙割」と組み合わせる動きも広がっています。

飲食店で「ドリンク１杯サービス」、商店で「ちょっとした割引」など、地域ぐるみで投票行動を応援する仕組みが生まれています。

実は過去（２００７年参院選）の時に、飯島町・中川村の商工会合同で「投票所から『投票済証』を持ち帰って得しよう」をキャッチフレーズに、「投票率アップ作戦なかがわいいじま選挙セール」が行われたこともあったようです。飲食、食品、衣料、スタンド、自動車販売など多種の事業者が参加して、値引きや粗品進呈、ポイント加算などを行ったとか。驚きですね！

選挙割は「投票に行く⬇地元のお店に寄る⬇地域が元気になる」という好循環をつくる取り組みとして今後も注目されます。

選挙に「楽しさ」や「地域らしさ」を

世界を見渡すと、アメリカでは「IVoted」ステッカーが国民的な人気で、州ごとに違うデザインを集める人もいたり、韓国では手にスタンプを押してＳＮＳに投稿するのが流行。オーストラリアでは投票所から出たら屋台でソーセージを買う「デモクラシー・ソーセージ」が名物だとか！

日本の「デザイン投票済証」は、こうした世界の「投票を楽しむ文化」の日本版と言えるかもしれません。選挙は、私たちの暮らしに直結する大切な機会。そこにほんのちょっと〝楽しさ〟や〝地域らしさ〟が加わると、もっと気軽に参加できるようになるかもしれません。

中川村だったらどんな取り組みができるかな？と妄想をふくらませ、みんなでアイデアを出し合ったら、楽しいかもしれませんね！

（あ）

参考：信濃毎日新聞デジタル／沼津市役所Ｘ／豊川市ＨＰ／横浜市選挙管理委員会Ｘ／読売新聞オンライン／伊那谷ねっとＨＰ　他



横浜市・選管マスコット「イコットJr」とカルタ風の投票証明書

みんなの広場

遺伝子に組み込まれたお餅への愛

田島　宮下（みやした）葉子（ようこ）さん

先日、図書館で装幀（そうてい）が気になる赤い本が目にとまりました。タイトルは「しろとくろの偏愛」。本に巻かれた帯には「餅、それは遺伝子に組み込まれた愛」。これは…なんと壮大な笑。著者ほどの愛には敵わないけれど、私もお餅が好きなので、借りて読んでいるうちに12月の餅つきが頭をよぎりました。



今年もあっという間に過ぎ、世間もせわしくなり始める頃、お餅をつかねばとどたばたしている自分が目に浮かびます。今は美味しい切り餅も売っているから買えばいいじゃん、と思いながらも餅米を準備しているのですから、これこそが自分の遺伝子に組み込まれた愛なんだと納得。



年末のどたばた劇場には理由があり、我が家の餅つき機は昭和の機械なので重い。米を洗って水に漬けたバケツも重いから2つに分ける。のし板も大きい。そうなると場所が必要なので台所の片付けからスタート。そこからかぁ…とテンション低めで動き出します。

それでも重い腰をあげ作業をし始めると、あっという間に餅つきは終了。しかし、餅偏愛の私はここで終わりません。柔らかいお餅にしたくて数年前に知った二度つきでついています。このつき方のお餅はとても柔らかくよく伸びるけれど、ついた餅を一旦水を張ったタライの中へ入れ伸ばしながら温度を下げ、また機械に戻してつくという工程で毎回四苦八苦しています。年に一、二度の作業なので、段取りを忘れていて、あっ！あれを準備してない！の連続です。このめんどくさい工程をくり返して出来上がったつきたてのお餅はそれはそれは最高で、柔らかくてよく伸びます。まず砂糖醤油からのきな粉、そしてさっぱりと大根おろし、からのお汁粉。と、味変なんかしたら食べ過ぎてしまいます。なので今年もこの至福の時を目指して餅つきに励みたいと思いました。

ちなみに冒頭の本に戻りますが「しろとくろ」のくろは「チョコレート、それは魂の食べ物」と。チョコレート好きも楽しく読める一冊なので、気になる方はぜひ図書館や書店で探してみてください。

「楽しい！美味しい！」を合言葉に、農業を次世代へ

中組　安藤（あんどう）淳一（じゅんいち）さん

私が「食」について深く考えるようになったきっかけは、父の病気でした。東京で会社員をしていた頃、父が入院や手術を繰り返す姿を見て、健康や暮らしについて考えるようになりました。さらに、東日本大震災を機に食や生活環境の安全について考え、自分の生き方を見つめ直し、会社を辞め、中川村での二拠点生活が始まりました。そこで改めて気づいたのが、命を支える「食」、それを生み出す農業、そして自然の大切さです。



仲間と一緒にはざ干し

現在、日本の農業は高齢化や後継者不足などの課題を抱えています。長年、田んぼや畑を守ってきた方々が農業を続けられなくなり、大切な農地が耕作放棄地となって次世代に受け継がれない現状があります。この流れを少しでも減らし、農地と農業の魅力を未来へつなぎたい。それが私の願いです。

私たちは「楽しい！美味しい！」を合言葉に、仲間と田んぼや畑で作物を育て、収穫し、みんなで味わう活動をしています。土に触れ、自分たちで育てたものを食べる喜びを分かち合い、農業をきっかけに人が集い、学び、笑顔になれる場にしたいと考えています。

また、「食ムダ！」の活動を通じて、食品ロスやコンポスト、土づくりなど、食と環境について楽しく学び、実践する仲間の輪を広げています。

さらに、月に1～2回「朝ごはんの会」を開催し、参加者が手作り料理を1品ずつ持ち寄って交流しています。地域のさまざまな情報を共有し、移住希望者や移住してきた方々も迎え、地域の人々をつなぐ交流の場づくりにも取り組んでいます。

目指すのは、私たちの田んぼのようなコミュニティを全国各地に広げることです。農地を守りながら、農業の楽しさや食の大切さを若い世代や子どもたちに伝え、人と人がつながり、地域と農業が元気になる未来を、同じ想いを持つ仲間たちとつくっていきたいと思います。



「朝ごはんの会」の様子

郷想故随　中川村で空を見上げる日々

横前地区在住　松本（まつもと）ゆう子（こ）さん（千葉県出身）

私の出身地は千葉県鎌ケ谷市です。人口10万人ほどの市で、千葉県の北西部に位置しています。東京都内までは電車を乗り継いで1時間弱くらいかかります。

鎌ケ谷市は梨の生産が盛んです。私が通っていた小学校は梨畑を切り開いて作られ、四方を梨畑に囲まれていました。梨を交配する時期には、学校の先生から「梨畑に蜂がいるので気をつけて帰るように」と注意をされた記憶があります。今でも梨の白い花が大好きです。

大学卒業後は20年以上、学習塾に勤務していました。勉強を教えることもありましたが、通塾している生徒さんや保護者さんと面談をして、学習や進路のことを相談することが主な仕事でした。やりがいもあり、楽しく働いていましたが、定年まであと10年ちょっとというころに今後の人生の過ごし方を考えて、移住を決断しました。



家と畑からの景色

２０２５年に中川村に移住して今は農業をしています。アスパラガス、ブロッコリー、長ねぎ、干し柿を作っています。また、珍しい紫アスパラガスを栽培しています。紫アスパラガスは甘みが強く、やわらかいことが特徴です。今年のアスパラガスシーズンは終了しましたが、春になったらぜひ食べてみてください。

今までは首都圏に住んでいたので、土に触れる機会もなく虫も苦手です。始めは畑にヨトウムシがいるだけで大騒ぎをしていました。今ではヨトウムシを見つけると喜んで？割りばしで捕獲しています。

中川村での生活はとても気に入っています。中川村のいいところはいくつもあります。

１つめは景色が素晴らしいです。今住んでいるところは、中央アルプスと南アルプスの両方がよく見えます。山が東西にあるにも関わらず、空が広くきれいです。朝焼け、日の出、いろいろな形の雲、虹、夕焼け、星空。毎日毎日どれだけ見ていても飽きない素晴らしさです。また、陣馬形山からの景色も最高です。

２つめは野菜や果物が美味しいです。自分たちの畑から収穫できるものはもちろんですが、直売所で新鮮な野菜や果物が安く手に入ります。

３つめは村の人が皆さんとても親切です。同じ組の方、地域の方、農家さん、移住者さんなど皆さんとてもよくしてくれます。



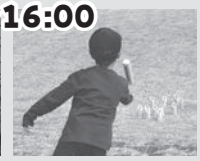
紫アスパラ

今年、「なかがわ聞き書きの会」の活動に参加しました。村内の高齢者の方に話をうかがい、文に起こしてまとめました。今回3集を発刊したのですが、1集2集3集を読み、中川村の昔のことを知ることができました。話し手さんにもとてもよくしていただいて感謝しています。

以前からの趣味をこちらでも続けています。趣味でヴィオラを弾いており、伊那フィルハーモニー交響楽団に所属しています。村では夜に練習しても迷惑にならないので助かっています。伊那フィルの演奏会にぜひいらしてください。また登山が好きなのですが、山が近いので朝の天気を見てから出かけることができるのも大助かりです。家から見える塩見岳（しおみだけ）にいつか登りたいと思っています。

Enjoy!!スポフェス　11月29日（日）8:30~16:00







会　場　天の中川河川公園（雨天時サンアリーナ）

○ウォーキングサッカー体験：
イングランド生まれの走らないサッカーを体験しましょう!

○ピックルボールストラックアウト体験：
世界で話題のピックルボール、そのパドルとボールを使って的当て体験!

○第4回中川ミニモル杯：
フィンランド生まれのどなたでも楽しめるスポーツ!（要事前申込み）

HPはこちら

申込み方法や各競技の時間など詳しくはHPをご覧ください。

問い合わせ先：
中川村教育委員会 88-1005

リレーコラム

分館ちょこっと訪問 ～『歴史探訪講座』大草分館～

今回は、10月4日に開催された、大草分館主催の「歴史探訪講座」を取材しました。

桃澤孝之分館長は開会の挨拶の中で「先人が紡いできた歴史を知って思いを馳せることが自分の故郷への愛着に繋がる。今回のように皆で集まって学ぶことに公民館活動としての意義がある。」と話されました。本講座は、中川村公民館活動のキーワード「集う・学ぶ・結ぶ」そのものです。

大草地区の中でも、今回は「沖町・三共・南陽」地区を中心とした歴史に焦点を当て、中川村歴史民俗資料館学芸員の米山妙子さんからお話をお聞きしました。

沖町地区太子原（たいしはら）は、台地全体が遺跡であり、広く続く果樹園の下に、縄文時代中期頃（約５０００年前）の大規模集落が眠っているとのこと。何だか壮大なロマンを感じませんか？

大草地区南部の歴史で最も注目されるのが中世で、「大草」という地名が出てくるのは、鎌倉幕府滅亡後に小さな村がまとまってできた「大草郷」が最初だそうです。当時は大鹿村の大河原（おおかわら）と鹿塩（かしお）も含まれていて、大草城は、南北朝時代に強大な勢力を持っていた大河原の香坂（こうさか）氏によって築造されたと考えられています。



公園化される前の大草城址周辺

米山さんのお話に熱心に耳を傾けていた30名近くの参加者の多くが講演後の座談会にもそのまま残られ、なごやかな雰囲気の中で話がはずみました。

実家の蔵にあったという、戦時中に発券された「戦時債券」を持って親子で参加された方は、自分の暮らしている土地の歴史を詳しく知ることが出来て有意義な時間だったと話してくれました。地区内にいくつも「洞（ほら）」が残っている南陽は、米山さん曰く「南陽地区だけに絞ってもたくさんの話がある」とのこと。次回に期待したいです。

現在歴民館では、特別展「中川村の絵図と古地図」を開催中。中川村に数多く残る絵図を読み解くことでその当時の村の暮らしが見えてきます。12月26日まで開催されているので、この機会に是非足を運んでみましょう。

（と）



公民館報編集委員 視察研修 報告

『伊那谷の戦争の歴史と文化を学ぶ』

10月31日（土）、編集委員研修に行ってきました。

登戸研究所
平和資料館（駒ヶ根市）

太平洋戦争末期の秘密兵器研究の歴史を伝える同館では、赤穂高校平和ゼミナールに携わった池田さんからお話を伺いました。心に残ったのは、高校生の熱意が大人たちの心を動かし、戦争の負の遺産を後世へ伝える活動につながったことです。

満蒙開拓平和記念館（阿智村）

満蒙開拓の歴史を伝える日本唯一の民間記念館です。国策によって満州へ渡った開拓団が、敗戦後、過酷な逃避行を経て帰国したものの、故郷に戻る家も土地もなかったこと。一方で、現地の人々から土地を奪った事実。自分たち側の苦難だけでなく、双方の立場から歴史を理解することの大切さを学びました。また、引き揚げ者が開拓した軽井沢での過酷な労働を知り、なぜ長野県から約３３，０００人もの開拓団が送り出されたか、悲劇を繰り返さないためには、まず事実を知ることが大切だと感じました。


登戸研究所『風船爆弾』


満蒙開拓平和記念館

ぼくらの郵便電話
資料館（阿智村）

郵便や電話、簡易保険など、人々の暮らしを支えてきた歴史を学びました。

帰路、ハロウィンの魔女に扮した少女たちに出会い、手にしていたクッキーを渡しながら、「この子たちの未来を、決して戦争で不幸にしてはならない」と強く心に留めました。

歴史を学ぶことは、未来を考えること。今回の学びを地域の皆さんと共有し、次の世代へつないでいきます。

館報 中川
第325号
2026年（令和8年）11月15日発行

こんにちは

赤ちゃん No.017

伊藤（いとう）　卓（すぐる）さん（竹ノ上地区）
真実（まみ）さん
次女 瑠実（るみ）ちゃん（11か月）

今月の「赤ちゃんこんにちは」は、令和7年12月に生まれた竹ノ上地区の伊藤瑠実ちゃん、ご両親の卓さん、真実さんにインタビューしました。

★★★★★★★★★★★★★★

【生まれた時のエピソードを教えて下さい】

予定日は12月22日でしたが、予定日の5日前、17日の午前3時に痛みを感じ、午前5時に破水したため病院へ向かいました。そのときパパは長野市にいたので、すぐに連絡。急いで駒ヶ根市まで駆けつけてくれました。陣痛の間隔がどんどん短くなり、パパが到着する前に生まれてしまうかもしれない状況でしたが、午前7時ごろに病院に到着し、立ち会い出産のもと無事に生まれてきてくれました。なんと、パパが到着してから約30分で誕生！まるで到着を待っていてくれたかのような、親孝行で素晴らしい娘です。



初めてのプール！
お姉ちゃんとエンジョイ


ブランコ楽しい～♪

【初めて赤ちゃんと対面した時の印象は？】

初めて顔を見た瞬間、「お姉ちゃんにそっくり！実紅（みく）だ！」と思いました。お姉ちゃんの小さい頃を思い出す、そっくりなお顔にびっくり！

そして、何よりも本当にかわいくて、愛おしい気持ちでいっぱいになりました。

【お子さんの癖は何かありますか？】

眠くなると目をゴシゴシ擦るのが癖です。機嫌が良い時はつかまり立ちやその場立ちをしながら、スクワットのように屈伸を続けて大きな声で叫んでいます（笑）。

また「イヤイヤイヤ」と言うと首を横に振り、「バイバイ」と言うと手を振ってくれるようになりました！

【お子さんが生まれて生活で変わったことは？】

家族に癒やしが増え、より一層みんなで楽しく過ごせる毎日になりました。実紅もすっかりお姉ちゃんらしくなり、ご飯を食べさせてくれたり、一緒に遊んでくれたりと、たくさん妹のお世話をしてくれています。姉妹で過ごす姿を見るたびに家族が増えた幸せを感じています。

【お子さんに関するおもしろエピソード等ありますか？】

お掃除ロボットのルンバが動き始めると大急ぎで逃げてきて泣きながらくっついてきますが、ルンバが止まっているときは怖くないようで、自分から近づいてペシペシ叩いたり、上に登ろうとしたりします。動いているときはあんなに怖がるのに、止まっていると強気になる姿が面白くて、家族みんなで笑っています！

【最後に、ご両親から瑠実ちゃんに一言】

卓さんから…

生まれてきてくれてありがとう！これからも元気にすくすく成長してください。

健康第一！

真実さんから…

ずっと元気で楽しく過ごせますよう祈っています！ママも支えていくからね！

生まれてきてくれてありがとう！大好きだよ～！


初めての撮影会

★★★★★★★★★★★★★★

いろいろとお忙しい中、インタビューを受けていただきましてありがとうございました。元気に大きく育ってくださいね。

うちょうらん

朝晩寒くなってきたこの頃、身体が温まる「お鍋」が食べたくなる季節でもある。お鍋に欠かせない具材の一つに「ネギ」がある。ネギは煮ても、焼いても、生でも美味しく、和・洋・中どんな料理にも相性が良い。ネギの旬は11月～2月にかけての寒い時期であるが、現在では年間を通して店頭に並んでおり、市場の需要の高さが伺える。中川村でも、村内のあちらこちらで広いネギ畑を見かけるようになったと感じる。

ＪＡ上伊那では、野菜部会に白ネギ専門部を組織しており、主力品目の一つとして栽培方法や優良品種の導入試験なども行い、県内でも有数の産地となってきているようだ。村内のあるネギ農家にお聞きしたところ、白ネギの栽培品種は「龍美（りゅうび）」「項羽（こう）一本太（いっぽんふと）」とのことで、その他にも「関羽（かんう）一本太（いっぽんふと）」などの品種があるそうだ。ネギの品種というと、信州の伝統野菜である「松本一本ねぎ」しか知らなかったが、時代とともに品種も変わり、大きな産業となりつつあり素晴らしいと思う。（ＭＫ）

■発行　〒399-3802 長野県上伊那郡中川村片桐4757 中川村公民館
TEL 0265-88-1005 〔Facebook〕https://www.facebook.com/nakakou2
FAX 0265-88-4005 〔Eメール〕nakakou@vill.nagano-nakagawa.lg.jp
■編集　公民館報編集委員会
■印刷　龍共印刷株式会社

VEGETABLE OIL INK　再生紙を使用しています。